

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2024年度 第2回 学生交流委員会
議事録

開催日時：2024年6月18日（火）14:30～16:30

開催場所：神戸学院大学 神戸三宮キャンパス

出席校（委員、代理）：

◎神戸常盤大学（工藤）

○神戸学院大学（岸本、島内、垂井）

芦屋大学（吉田）、関西国際大学（山住）、関西学院大学/関西学院短期大学（谷口）

甲南大学（松下）、甲南女子大学（松井、木村）、神戸大学（山地）神戸国際大学（寄能、郭）

神戸松蔭女子学院大学（左官）、神戸女学院大学（井上）、神戸親和大学（金山）

兵庫大学/兵庫大学短期大学部（吉田）

※ ◎は委員長校、○は副委員長校、敬称略

欠席校：大手前大学、大手前短期大学、神戸海星女子学院大学、神戸市看護大学

神戸女子大学、神戸女子短期大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学

園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、兵庫県立大学

大学コンソーシアムひょうご神戸事務局：阿久根、中水、谷本

I. 協議事項

1. 取組2「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」における謝礼について (資料1)
2. その他

II. 報告事項

1. 2024年度 定時総会 (資料2)
2. 令和6年能登半島地震被害に対する義援金について (資料3)
3. 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて (資料4)
4. 2024年度 学生交流委員会事業の進捗について
 - 1) 「地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動」(日本財団ボランティアセンターとの共催)について (資料5)
 - 2) 「ナガセケムテックスプレゼンツ ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト」学生募集について (資料6)
 - 3) 「兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project」未来へつなごう！万博展 学生運営スタッフ募集について (資料7)
5. 若者による「震災の教訓をつなぐプロジェクト」について (資料8)
6. 「ひょうごボランティアプラザ第1回ボランティアバス」について (資料9)
7. その他

III. 意見交換

1. 能登半島地震学生ボランティアについて (資料10)
2. 阪神・淡路大震災30年に向けて (資料11)
3. その他

IV. 連絡・調整事項

1. 第5期役員体制について
2. その他

以上

<配布資料>

- 資料 1-1 : 【取組 2】 学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」について
資料 1-2 : 一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 謝金等支払基準
資料 2 : 2024 年度 定時総会 議事次第
資料 3 : 令和 6 年度能登半島地震に対する義援金のご報告
資料 4 : 第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて
資料 5 : 大学コンソーシアムひょうご神戸×日本財団ボランティアセンター
「地域の子育て支援拠点・子どもの居場所で活動しよう！」参加学生募集チラシ・企画書
資料 6 : ナガセケムテックスプレゼンツ
「ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト」参加学生募集チラシ
資料 7 : 兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project 「未来へつなごう！万博展
ひょうごフィールドパビリオン体験ワークショップ」学生運営ボランティアスタッフ募集チラシ
資料 8 : 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」業務仕様書(案)
資料 9 : 災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議（事務局：ひょうごボランタリープラザ）
令和 6 年度「石川県珠洲市への災害ボランティアバスの派遣」
資料 10 : 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校における「令和 6 年度能登半島地震」支援に関する取組
アンケート結果
資料 11 : 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校における阪神・淡路大震災 30 年を迎える取組
アンケート結果

I. 協議事項

1. 取組 2 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」における謝礼について

神戸常盤大学・工藤委員長より、前回委員会での協議の結果を受けて、本件を委員長・副委員長・コンソ事務局の預かりとし、本件謝礼の取り扱いについて、各委員校にアンケートを実施した経緯の説明があった。今年度の学生交流委員会の方針として、アンケート回答にて寄せられた意見を鑑み、学生交流委員会事業の【取組 2】については、謝礼を「原則、支払わないこと」とする提案があり、承認された。加えて、「謝礼が望ましい案件が発生した場合、学生交流委員会で相談を受ける余地はある」こともあわせて承認された。

さらに、資料 1-1～資料 1-2 に基づき、本取組を開始した 2022 年度から現在に至る投稿状況について報告があり、今年度から 2026 年度の 3 年間は、学生交流委員会の委員校が年 2 回以上（前期・後期に各 1 回など）寄稿することで、大学の取組を各年 52 取組掲出し、中長期計画の目標達成を目指すこととした。

2. その他

特になし。

II. 報告事項

1. 2024 年度 定時総会

コンソ事務局より、資料 2 に基づき、本年度定時総会の開催について説明があった。

2. 令和6年能登半島地震被害に対する義援金について

コンソ事務局より、資料3に基づき、能登半島地震被害に対する義援金について報告があった。

3. 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて

コンソ事務局より、資料4に基づき、全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの概要と来年度の神戸開催の研究交流フォーラムについて説明があった。

4. 2024年度 学生交流委員会事業の進捗について

1) 「地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動」

(日本財団ボランティアセンターとの共催)について

コンソ事務局より、資料5に基づき、本年度の募集開始の報告と当該事業の概要について説明があった。

2) 「ナガセケムテックスプレゼンツ ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト」

学生募集について

コンソ事務局より、資料6に基づき、本年度の募集開始の報告と当該事業の概要と特色について説明があった。

3) 「兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project」未来へつなごう！万博展

学生運営スタッフ募集について

コンソ事務局より、資料7に基づき、本年度の進捗状況の報告と当該事業の概要について説明があった。

5. 若者による「震災の教訓をつなぐプロジェクト」について

コンソ事務局より、資料8に基づき、当該業務仕様書(案)の概要について説明があった。

6. 「ひょうごボランティアプラザ 第1回ボランティアバス」について

コンソ事務局より、資料9に基づき、「災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議」による「ひょうごボランティアプラザ 第1回ボランティアバス(石川県珠洲市)」に加盟校教員・学生の計2名が参加した旨の報告があった。教員が参加した神戸常盤大学の工藤委員長より、活動についての報告があった。

7. その他

特になし。

III. 意見交換

1. 能登半島地震学生ボランティアについて

神戸常盤大学の工藤委員長より、資料10に基づき、能登半島地震学生ボランティアについて、各校での取り組みアンケートを実施したことについて説明があった。あわせて出席委員より、自学での取り組みについて、説明があった。その後、共有したい情報・課題について意見交換を行った。

○主な意見(情報共有・課題)

学生の現地活動について

- ・被災地までは、公共交通機関を利用し、現地では小型マイクロバスを手配する等している。

- ・参加者は少人数で編成し、現地での安全確保に努めている。
- ・現地での活動時は、宿泊先の確保、交通手段の確保、上下水道の確認（トイレ利用など）が安定したボランティア活動を行う上で重要（課題）になる。
- ・地震直後のボランティア活動でなく、少し間隔を空けてからのボランティア活動もある。
- ・活動にあたって一番大切なことは、被災地現場との関係構築と安全に学生を送り出すこと。
- ・被災地所在の大学（学生）、コンソ、自治体、関係各所と連携し、現地の方々に迷惑にならないように活動することが大前提。また、現地のニーズを探ることも重要。

引率について（大学としての活動の場合）

- ・事前に教職員が現地に入り、被災地の状況把握と学生の安全確保ができるかを現地調査している。現地調査の報告に基づいて、学内で学生ボランティアの派遣ができるか検討している。学生が現地に入る際は、教職員が必ず引率している。

保護者対応について

- ・被災地に入る前に、学生はボランティアの事前研修を受ける。ボランティアに参加する学生には、保護者の同意書を必須としている。同意書の未提出者は参加させていない。

その他

- ・一大学での取組が困難な場合、複数大学が参画できる仕組みをつくり、ボランティア参加を希望する少数の学生が活動に参加できると有益かもしれない。

2. 阪神・淡路大震災 30 年に向けて

神戸常盤大学の工藤委員長より、資料 11 に基づき、事前アンケートの結果について説明があり、各校より取組の説明があった。その後、意見交換を行った。

○主な意見（情報共有・課題）

学生の安否確認について

- ・学生の安否確認の方法は、アプリによる返信（既読）、システムへのメール返信、入学時に配布した「緊急時対応マニュアル」での指示など、各校で対応は異なっている。
- ・安否確認アプリから学生全員に安否確認メールが全学生に配信され、既読状況や返信の有無を管理者画面がから確認する仕組みを導入している。
- ・大学の情報処理の講義で教員から学生に安否確認システムのアプリを入れる指導をしている。
- ・安否確認システム導入で回答率が高くなるわけでないが、学生に通知できるメリットはある。

防災備蓄品について

- ・備蓄品を切り替える時期に来ている。学生に配布するなどしている。

3. その他

特になし。

IV. 連絡・調整事項

1. 第 5 期役員体制について

コンソ事務局より配布したコンソのパンフレットに基づき、第 5 期役員体制を説明があった。

2. その他

コンソ事務局より、今後の委員会の開催（予定）について説明があった。

以上